

1. 調査報告概要表

作成日 2010年4月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1070400674
法人名	咲願株式会社
事業所名	グループホーム さがん
所在地	群馬県伊勢崎市富塚町1159-3 (電話) 0270-31-3588

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 22 年 2 月 5 日

【情報提供票より】(22年 1 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	6.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有() 円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 300 円
または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9 月 14日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.75 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	久保医院・山王病院・共栄歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者一人ひとりが日常生活を送る上で基本となる、入浴・食事・排泄の支援が適切に提供されている。また、管理者のホーム運営やサービスに対する考えがはっきりしており、職員はその指導の基、理念に沿った支援を行なっている。管理者・職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、職員の見守りや玄関の設えの工夫等で、日中は玄関に施錠をせず、利用者の自由な生活を確保している。利用者は、散歩や食材の買い物で日常的にスーパー等へ出かけており、外出により気分転換が図れるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題であった、評価の意義の理解と活用では、今回の自己評価は職員から聞き取り管理者がまとめ改善されている。現状に即した介護計画の見直しについては、定期的場合は6ヶ月に1度の見直し、災害対策についても「グループホームさがん消防計画」は作成されているが、避難訓練が年に1回実施されているのみで改善には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は全職員が参加して作成したものである。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は定期的に行っており、ホームからは利用者の状況や行事の報告、感染症予防や外部評価結果報告を行い、意見交換を行っている。そこでの意見等はサービスの向上に活かすよう努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議開催のお知らせに家族の要望やアンケート欄を設け、意見の吸い上げに努めている。家族等の要望に沿った対応に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に近隣の人々と挨拶をしたり、野菜を頂くこともある。地域のボランティアの慰問の場として施設を開放したり、地域の行事に参加している。ヘルパー養成の実習生の受け入れ等、地域との交流に努めている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認でき、地域との関連性を盛り込んだ事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の申し送り時や問題や課題が生じた時に、職員会議等で話し合い、申し送りノートを活用しながらケアの方向性を確認し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に地域の人々と挨拶をしたり、野菜を頂くこともある。地域のボランティアの慰問(歌・踊り・マジックショー・アコーディオン)の場として施設を開放したり、地域の行事に参加している。ヘルパー養成の実習生の受け入れ等、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員に意見を聞いて管理者がまとめた。外部評価の結果については、会議等で話し合われているが、具体的な改善には至っていない。	○	自己・外部評価を活用するためにも、全職員による自己評価の作成や外部評価の結果を踏まえて、全職員で意見を出し合い、具体的な改善に取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催しており、ホームからは利用者の状況や行事の報告、感染症予防や外部評価結果報告を行い、意見交換を行っている。全家族に開催のお知らせを送付し、出欠席を確認している。家族からは議事録送付の希望が出ており、対応したいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口とは、業務上必要な報告や意見交換等を行っており、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用料を現金で持参してもらい、月に1度は家族等が来訪している。家族等の来訪時には健康状態や生活の様子、職員の状況等を報告している。状態の変化が生じた場合は随時、電話で報告している。小遣い帳の出納報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時には声掛け等の工夫で気軽に話の出来る雰囲気を作っている。運営推進会議開催のお知らせに家族の要望やアンケート欄を設け、意見を吸い上げようとしている。家族等の要望に沿った対応に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合には、家族等に入退職者の報告を行い、職員の勤務表を掲示している。入職者には先輩職員が付いて指導しながら、1～2ヶ月は二人体制で支援にあたり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	在宅ケア研究会、介護技術スキルアップ研修会、地域緩和ケア推進研修会、実践者研修、主任介護支援専門員研修会に参加している。研修後に参加者に報告をしてもらい、その研修内容の議題で話し合いを行い、職員が研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会には加入していない。管理者は興味や特段秀でたホームがあれば参考にしたいと考えているが、地域の同業者と交流する機会を持っていない。	○	管理者や職員が、同業者との交流の機会を持てるようなシステム作りの工夫をし、サービスの質の向上に反映させていってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族等に来所してもらい、利用者や職員とお茶を飲んだり食事をしながらホームで過ごしてもらい、雰囲気に馴染めるよう配慮している。入居してからも家族等に面会に来てもらったり、距離をおいてもらう等、家族の協力を得ながら、徐々に環境に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでの生活を家庭生活の延長と捉え、希望があればお酒・タバコの嗜好品も自由に持ち込める。職員は利用者から、昔の習慣や知識を教してもらったり、感謝の言葉をもらうとホッとすると等、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族等からの情報や本人の日頃の言動等による「こうありたい」の視点で、個別の支援を考えている。全職員が情報を共有し対応している。、お正月には3人帰省している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を踏まえて、アセスメントに基づき、職員会議で話し合い、職員の意見や気づきを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回のモニタリング、6ヶ月に1回の見直しを行っている。状態に変化があった場合は随時の見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。	○	状態の変化がない場合でも、月に1度のモニタリングを活かした、3ヶ月に1回の介護計画の見直しを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医への通院支援、往診歯科や買物支援等を行っている。居宅介護支援事業所の機能を活かし、必要に応じて柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医での受診が出来るよう支援している。利用者の健康管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、事業所としての重度化や終末期に向けた方針について、本人や家族等に説明している。歩けなくなったり、入院が長引いた場合は退去という共通の認識を持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者はホームの方針として、利用者へは敬語を使って話をするよう職員に働きかけている。個人的な悩み事には、誇りやプライバシーを損ねない対応をして、利用者に安心してもらえるよう職員間で確認し合っている。個人情報保護については職員入職時に説明し、誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、全体の流れや本人の生活のリズムを大切にした日々の暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食材の買物・料理の下ごしらえ等を職員と一緒に行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、職員がさりげなくサポートをしたり、一緒に会話を楽しみながら食事をしている。お正月のおせち料理等で季節やならわしを大切に支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週に3回、午前・午後の入浴支援を行っている。利用者の体調や希望によっては、毎日入浴できる体制ができている。入浴拒否のある利用者へは、対応する職員や時間等を変更し入浴を楽しめるよう支援している。ゆず湯や菖蒲湯で季節感を採り入れる工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は掃除・ゴミだし・買物・料理の下ごしらえ等、一人ひとりが出来ることを役割として持ち、張り合いのある日々を送っている。散歩・ドライブ・花見・誕生会・クリスマス会・節分等の楽しみ事や気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に応じて、散歩・買物・ドライブ等で戸外に出て外気に触れる機会を作り、季節を感じながら気分転換を図ってもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、出入りにセンサーを設置し、日中は職員の見守りで、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、ホーム独自の避難訓練を行っている。自衛消防隊を設置し、非常連絡網を作成している。運営推進会議等で、地域の人々の協力が得られるよう働きかけている。地域の交番や消防署にも、定期的に情報提供を行っている。	○	災害時等の緊急体制への整備の観点から、消防署の指導による総合防災訓練を含め、実地訓練の回数の増加や、実際に地域の人々の協力が得られるよう、協力体制づくりに取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し、職員は情報を共有しながら支援している。水分の摂取量は2000ccを目安としている。利用者の好みを献立に取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りはシンプルな大人の設えとなっており、ホールの共有空間は採光も十分で、家庭的な雰囲気である。構造的にホールと食堂が一体となっており、職員と利用者が食事の準備や後片付け等一緒に行なっている。居室以外に、ウッドデッキや畳の部屋もあり、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全て持ち込みとなっている居室には、ベッド・衣装ケース・箆筒・時計・家族の写真・籐のイス・ぬいぐるみ・衣装かけ・人形等が持ちこまれており、個別性のある居室が作られている。		